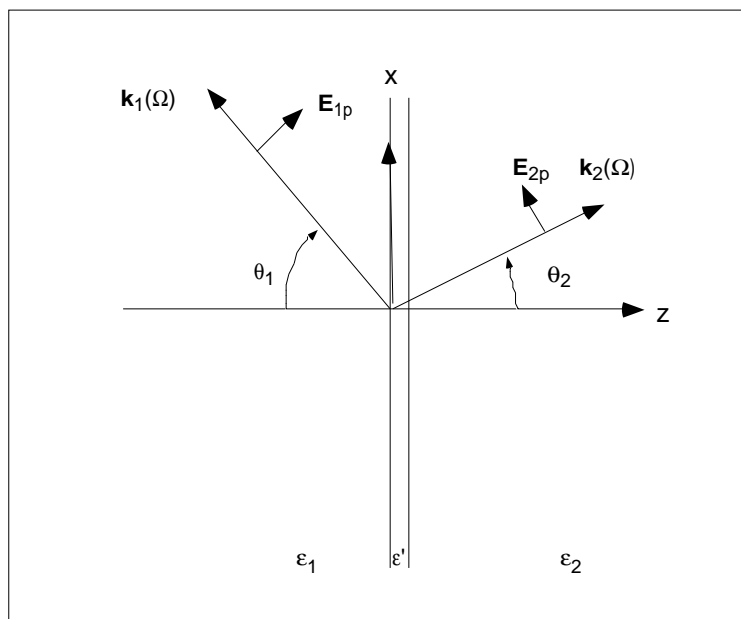


付録 A: 近似を外した形での(17)式の導出

波動ベクトルや電場ベクトルは下図のようになる。



まず、基本的な量の間関係をまとめておこう。

$$k = (n/c)\omega, \quad \epsilon = (c^2/\omega^2)k^2, \quad \lambda = c/v,$$

さて、単一周波数の光（平面波）を考えることとし、このような場合には微分演算子 ∇ が波動ベクトル ik で置き換えられることを利用する。そうすると、電場と磁場の関係が下のようになることが (2b) 式から導かれる。

$$\mathbf{H} = (\omega/c)\mathbf{k} \times \mathbf{E} \tag{A1}$$

$$\begin{aligned} H_x &= (\omega/c)(k_y E_z - k_z E_y) \\ H_y &= (\omega/c)(k_z E_x - k_x E_z) \\ H_z &= (\omega/c)(k_x E_y - k_y E_x) \end{aligned} \tag{A2}$$

電場を transverse (面内) 成分と longitudinal (垂直) 成分に分けて、 $\mathbf{E} = \mathbf{E}_t + E_z \mathbf{u}_z$ と表すとき、磁場は下のようになる。

$$\mathbf{H} = \mathbf{H}_t + H_z \mathbf{u}_z = (\omega/c)\{\mathbf{k}_t \times \mathbf{E}_t + k_z(\mathbf{u}_z \times \mathbf{E}_t) + E_z(\mathbf{k}_t \times \mathbf{u}_z)\}$$

図のように、2つの光線 (k ベクトル) が作る面を xz 面に取り、媒質 1 から媒質 2 に向けて界面に立てた法線を z 軸にする。(原点は、界面上の光の発生点とする。) この時、 $k_{1z} < 0$, $k_{2z} > 0$ である。p 偏光の電場ベクトル \mathbf{E}_p の向きの取り方には 180° の任意性があるが、我々は図のように取るので、 $E_{1z} > 0$, $E_{2z} < 0$ である。また、下の関係を覚えておこう。

$$\varepsilon = (c^2/\omega^2)k^2 \quad (\text{A3})$$

上に示した関係式を使って (12a) ~ (12d) 式を書き変えると下の結果になる。

本文の (12a) 式より、

$$\varepsilon_2 E_{z2} - \varepsilon_1 E_{z1} = -4\pi i \mathbf{k}_i \cdot \mathbf{P}_{s,t} = -4\pi i (k_x P_{s,x} + k_y P_{s,y}) \quad (\text{A4a})$$

同じく (12b) 式より、

$$\begin{aligned} E_{t2} - E_{t1} &= -(4\pi i/\varepsilon') P_{s,t}, & \text{即ち、} \\ E_{x2} - E_{x1} &= -(4\pi i/\varepsilon') k_x P_{s,z} \end{aligned} \quad (\text{A4b})$$

$$E_{y2} - E_{y1} = -(4\pi i/\varepsilon') k_y P_{s,z} \quad (\text{A4c})$$

同じく (12c) 式より、

$$\begin{aligned} (k_x E_{y2} - k_y E_{x2}) - (k_x E_{y1} - k_y E_{x1}) &= 0, & \text{即ち、} \\ k_x (E_{y2} - E_{y1}) &= k_y (E_{x2} - E_{x1}) \end{aligned} \quad (\text{A4d})$$

同じく (12d) 式より、

$$\begin{aligned} (c/\omega)[(k_{z1} E_{y1} - k_{z2} E_{y2}) + k_y (E_{z2} - E_{z1})] &= -(c/\omega) 4\pi i P_{s,y} \\ (c/\omega)[(k_{z2} E_{x2} - k_{z1} E_{x1}) - k_x (E_{z2} - E_{z1})] &= +(c/\omega) 4\pi i P_{s,x}, & \text{即ち、} \\ (k_{z1} E_{y1} - k_{z2} E_{y2}) + k_y (E_{z2} - E_{z1}) &= -4\pi i (\omega/c)^2 P_{s,y} \\ -(k_{z2} E_{x2} - k_{z1} E_{x1}) + k_x (E_{z2} - E_{z1}) &= -4\pi i (\omega/c)^2 P_{s,x} \end{aligned} \quad (\text{A4e})$$

$$-(k_{z2} E_{x2} - k_{z1} E_{x1}) + k_x (E_{z2} - E_{z1}) = -4\pi i (\omega/c)^2 P_{s,x} \quad (\text{A4f})$$

なお、 k_1 、 k_2 、 k_s の x 成分および y 成分は界面の両側で等しい値を持つ。さらに、ここで考えているように 2 つの励起光の入射面を一致させる場合には、 $k_y = 0$ となるように座標系を選ぶことが出来る。

(A4d) 式は (A4b) 式と (A4c) 式から導くことができ、(A4a) 式は (A4e) 式と (A4f) 式から導くことができるので、上の 6 個の式のうち独立なものは 4 つである。なお、後者の導出は、(A4e) $\times k_y$ + (A4f) $\times k_x$ に対して、 $\mathbf{k}_i \cdot \mathbf{E}_i = 0$ と $k_i^2 = (\omega/c)^2 \varepsilon_i$ を加味する。

ベクトル \mathbf{E}_1 と \mathbf{E}_2 が xz 面となす角を τ_1 、 τ_2 とする。(k 軸まわりの回転で xz 面を E に重ねる方向を正方向と定義する。)

$$\begin{aligned} E_{1p} &= E_1 \cos \tau_1, & E_{2p} &= E_2 \cos \tau_2 \\ E_{1s} &= E_1 \sin \tau_1, & E_{2s} &= E_2 \sin \tau_2 \end{aligned} \quad (\text{A5})$$

今考えている媒質は均一であるから、波動も homogeneous で、 \mathbf{E} と \mathbf{H} は直交する。 \mathbf{E}_1 、 \mathbf{E}_2 、 \mathbf{k}_1 、 \mathbf{k}_2 の座標成分を角 θ_1 、 θ_2 で表すと、

$$\begin{aligned} E_{x1} &= E_{1p} \cos \theta_1, & E_{x2} &= E_{2p} \cos \theta_2 \\ E_{y1} &= E_{1s}, & E_{y2} &= E_{2s} \\ E_{z1} &= E_{1p} \sin \theta_1, & E_{z2} &= E_{2p} \sin \theta_2 \\ k_x &= k_{x1} = k_{x2} = k_1 \sin \theta_1 = k_2 \sin \theta_2 \end{aligned} \quad (\text{A6})$$

$$\begin{aligned}
k_y = k_{y1} = k_{y2} &= 0 \\
k_{1z} &= -k_1 \cos \theta_1, \quad k_{2z} = +k_2 \cos \theta_2
\end{aligned} \tag{A7}$$

(A4a) ~ (A4f) 式に (A6) 式と (A7) 式を代入して下式を得る。

$$\varepsilon_2 E_{2p} \sin \theta_2 + \varepsilon_1 E_{1p} \sin \theta_1 = 4\pi i (k_x P_{s,x} + k_y P_{s,y}) = 4\pi i k_x P_{s,x} \tag{A8a}$$

$$\varepsilon' (E_{2p} \cos \theta_2 - E_{1p} \cos \theta_1) = -4\pi i k_x P_{s,z} \tag{A8b}$$

$$\varepsilon' (E_{2s} - E_{1s}) = -4\pi i k_y P_{s,z} = 0 \tag{A8c}$$

$$k_x (E_{2s} - E_{1s}) = k_y (E_{2p} \cos \theta_2 - E_{1p} \cos \theta_1) = 0 \tag{A8d}$$

$$k_y (E_{2p} \sin \theta_2 + E_{1p} \sin \theta_1) + (k_{2z} E_{2s} - k_{1z} E_{1s}) = k_{2z} E_{2s} - k_{1z} E_{1s} = 4\pi i (\omega^2 / c^2) P_{s,y} \tag{A8e}$$

$$k_x (E_{2p} \sin \theta_2 + E_{1p} \sin \theta_1) + (k_{2z} E_{2p} \cos \theta_2 - k_{1z} E_{1p} \cos \theta_1) = 4\pi i (\omega^2 / c^2) P_{s,x} \tag{A8f}$$

(A8a) 式と (A8b) 式から、 $\varepsilon_1 \sin \theta_1 \cos \theta_2 + \varepsilon_2 \cos \theta_1 \sin \theta_2 = (c^2 / \omega^2) (k_1 \cos \theta_2 + k_2 \cos \theta_1)$ の関係を使って、下を得る。

$$E_{2p} = 4\pi i \frac{\omega^2}{c^2} \frac{\cos \theta_1 [P_{s,x} + (k_y / k_x) P_{s,y}] - (\varepsilon_1 / \varepsilon') \sin \theta_1 P_{s,z}}{k_1 \cos \theta_2 + k_2 \cos \theta_1} \tag{A9a}$$

$$E_{1p} = 4\pi i \frac{\omega^2}{c^2} \frac{\cos \theta_2 [P_{s,x} + (k_y / k_x) P_{s,y}] + (\varepsilon_2 / \varepsilon') \sin \theta_2 P_{s,z}}{k_1 \cos \theta_2 + k_2 \cos \theta_1} \tag{A9b}$$

この結果は、通常の光の反射では反射率がゼロになる $\varepsilon_1 = \varepsilon_2 = \varepsilon'$ のときでも SFG 光は生成し、かつ、 $|E_{1p}| \neq |E_{2p}|$ であることを示している。

(A8c) 式、(A9a) 式、(A9b) 式を (A8e) 式に代入すると下を得る。

$$E_{2s} = E_{1s} = 4\pi i \frac{\omega^2}{c^2} \frac{P_{s,y}}{k_{2z} - k_{1z}} = 4\pi i \frac{\omega^2}{c^2} \frac{P_{s,y}}{k_1 \cos \theta_1 + k_2 \cos \theta_2} \tag{A10}$$

本文の (17) 式は、(A9) 式と (A10) 式に $\varepsilon_1 = \varepsilon_2 = \varepsilon' = 1$ の条件を加えると満足されることを示すことが出来る。($k_1 = k_2$ 、 $\theta_1 = \theta_2$ になるところがみそである。)